

京都北部の眼科医療はいま～京都府立与謝の海病院より～

当院が位置する丹後地域は京都市から遠く離れていることに加え、高齢者が非常に多いため、京都市内への受診が困難な患者さんがほとんどです。そのため、当科では、眼科疾患の全般にわたって幅広い診療をしており、ほぼ全ての眼科手術に対応できる体制をとっています。なかでも網膜硝子体疾患治療に力を入れており、OCT(光干渉断層計)で非侵襲的に眼底三次元画像診断を行い、25ゲージ硝子体手術システムやPhoton眼内照明装置を駆使して、低侵襲の硝子体手術をおこなっています。その他では、高齢化に伴い増加している加齢性眼瞼下垂に対する手術症例が多いのも特徴です。白内障に対しては、点眼麻酔下にて無縫合小切開手術を行っており、高い網膜保護効果を有し、コントラスト感度に優れた非球面着色眼内レンズを使用しています。内眼手術は

網膜硝子体手術も含むほぼ全例、疼痛の少ない麻酔方法で行っております。平成20年度(4月～2月まで)の手術件数は795件で、内訳は白内障568件、網膜硝子体疾患75件、眼瞼下垂手術36件などです。

また、知識のアップデートを図り、日々の診

療に還元するために、国内外の学会へ積極的に参加するように努めております。

京都府北部の患者様に安全で質の高い医療を提供するべく日々診療にあたっておりますので、今後ともよろしくお願致します。

(小森秀樹)



木下教授 Castroviejo Medal (カストロビエホメダル) 受賞! 報告

AtlantaでのAAO(American Academy of Ophthalmology;2000年11月8日～11日)において、木下教授のCastroviejo Medal受賞式典およびその関連行事が行われました。Castroviejo Medalとは、角膜移植をヒトで初めて成功させたCastroviejo教授の功績を称えて1975年に設立された賞で、角膜に関する研究で著しい業績を挙げた研究者にThe cornea society (前身はThe Castroviejo cornea society)によって贈られるものです。角膜研究の世界では最高峰と言われ、これまで、日本人では、東京大学眼科の故 三島清一名誉教授(1982年)と山口大学の西田輝夫教授(2001年)が受賞されています。歴代受賞者は、教科書に名を連ねる角膜の大御所ばかりです。木下教授のMentorであられる故Thoft 教授も、私のドライア

イのMentorであるBron名誉教授も受賞されておられます。受賞式典に先立ち、関連行事として、The cornea society 主催のディナーパーティー(8日)と府立医大眼科主催のレセプションパーティーが行われ、我々のパーティーにも多くの方が参加され、なかなか帰られる先生がいないほど盛り上がりました。AAOのプログラム(11日)の中で行われた受賞式典では、The cornea Society のPres-

ident であるMannis教授によるご紹介のあと、木下教授による受賞講演(Title:Therapeutic Modalities for the Ocular Surface Disorders)が行われ、重症眼表面疾患に対する府立医大眼科独自の考え方と治療法についてお話されました。広い会場が埋め尽くされる中で割れんばかりの拍手がおこり、府立医大眼科の一員として心から嬉しく思いました。(横井則彦)



眼科新外来棟が完成

新外来棟建設移転計画に応じて眼科の新外来棟が11月に完成しました。11月20～23日に移転を行い、24日から診療を開始しました。眼科の新外来は外来棟の4階に位置し、外来部門の最上階の鴨川向きにあります。新外来の特徴は、①電子カルテ化に対応した診療体制であること、②個室診療により患者プライバシーを重視していること、③モニター設置によりビジュ

アルな患者説明と教育システムを実現していること、④鴨川サイドの明るい場所に待ちあいを設置し、患者のためのアメニティーについても配慮した設計になっています。特に電子カルテ化にはニデック社製の眼科用ソフトを独自に共同作成し、理想的な電子カルテ記載と効率的な検査機器連携を実現しています。ペンプレイトを用いたカルテ記載は次世代の

眼科電子カルテを実現し、多くの画像ファイルはよりビジュアルなカルテ記録と患者説明を実践できています。木目調の落ち着いた雰囲気とは対照的に最新の医療機器ネットワークが設置されており、患者数の増加や各種の専門的医療に対応して、より効率的で質の高い医療を目標としています。

(稲富 勉)



編集
後記

新外来棟に移転して早いもので半年を迎えようとしています。心なごむ窓外の風景と、未来を見据えた設計で、外来、医局、研究室のすべてで住み心地がよくなりました。工夫次第で、まだまだ便利に活用できそうです。木下教授が角膜の世界最高峰 Castroviejo medal を受賞され、専門外来も充実して、府立医大眼科は世界的にも注目されています。Eye Treat 革命も、みなさんのご意見をいただきながら、さらなるステップアップをめざしたいと思います。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。
EYE Treat 革命 編集部(横井則彦、奥村直毅、中路紗都子) 京都府立医科大学 眼科 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 TEL: 075-251-5578 FAX: 075-251-5663